

Title of the Device

Connecting Rod of Internal Combustion Engine

What is claimed is:

A connecting rod of an internal combustion engine in which a stud bolt is embedded at an abutting plane of divided large end segments of a connecting rod main body and a cap is fastened to the bolt characterized in that a cavity is formed at the shoulder part of said connecting rod main body, corner portions of a bottom surface and a side wall surface of the cavity are formed into a round surface shape, a bolt hole is passed and formed through the bottom surface of the cavity, and the extremity end of said stud bolt is projected from the bottom surface of said cavity into said cavity.

⑫ 公開実用新案公報(U) 平1-143418

⑬ Int. Cl.⁴F 16 C 7/02
9/04

識別記号

庁内整理番号

8814-3 J
8814-3 J

⑭ 公開 平成1年(1989)10月2日

審査請求 未請求 請求項の数 1 (全2頁)

⑮ 考案の名称 内燃機関のコネクティングロッド

⑯ 実 願 昭63-39229

⑰ 出 願 昭63(1988)3月25日

⑱ 考 案 者 伯 香 田 毅 神奈川県横浜市神奈川区宝町2番地 日産自動車株式会社
内⑲ 考 案 者 小 澤 功 敬 神奈川県横浜市神奈川区宝町2番地 日産自動車株式会社
内⑲ 考 案 者 倉 富 英 明 神奈川県横浜市神奈川区宝町2番地 日産自動車株式会社
内⑲ 考 案 者 松 山 晃 神奈川県横浜市神奈川区宝町2番地 日産自動車株式会社
内⑲ 考 案 者 小 野 川 肇 神奈川県横浜市神奈川区宝町2番地 日産自動車株式会社
内

⑳ 出 願 人 日産自動車株式会社 神奈川県横浜市神奈川区宝町2番地

㉑ 代 理 人 弁理士 志賀 富士弥 外2名

㉒ 実用新案登録請求の範囲

コネクティングロッド本体の2分割された大端部の合わせ面に、スタッドボルトを植設し、ここにキャップを締結してなる内燃機関のコネクティングロッドにおいて、

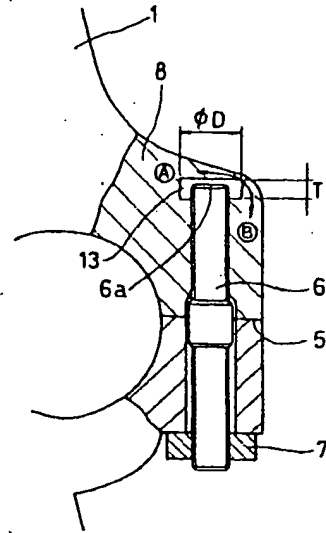
前記コネクティングロッド本体の肩部に空洞部を形成するとともに、この空洞部の底面と側壁面との隅部をR面に形成し、かつボルト孔をこの空洞部の底面に貫通させて形成して、前記スタッドボルトの先端を前記空洞部の底面から該空洞部に突出させた、ことを特徴とする内燃機関のコネクティングロッド。

図面の簡単な説明

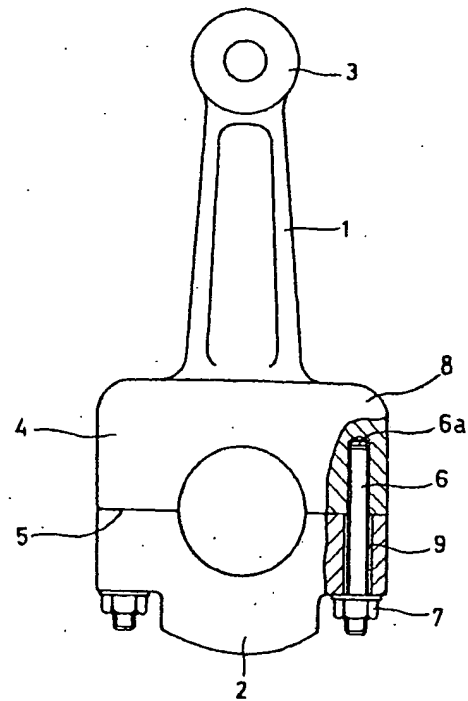
第1図は、本考案の一実施例を示す要部断面図、第2図は、コネクティングロッドに引張力が作用した際の状態を示すスタッドボルト先端部付近拡大断面図、第3図は、従来のコネクティングロッドを示す一部断面図、第4図は従来のコネクティングロッドに引張力が作用した際の応力集中状態を示す説明図である。

1……コネクティングロッド、1a……コネクティングロッド雌ねじ区間終了部、6……スタッドボルト、6a……スタッドボルト先端部、8……コネクティングロッド肩部、13……空洞部。

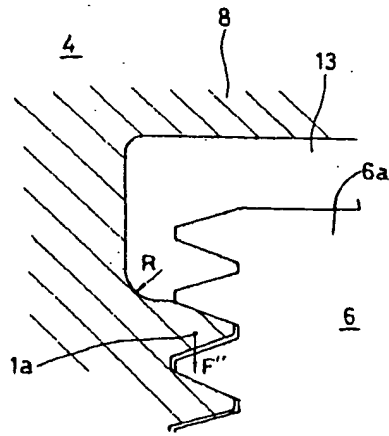
第 1 図



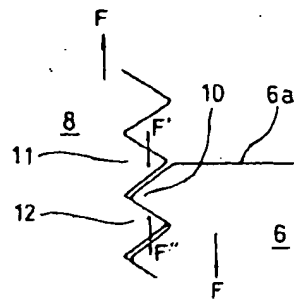
第 3 図



第 2 図



第 4 図



THIS PAGE BLANK (USPTO)